

グレートハンティングのショックを超え「カストロフ」の恐怖を凌ぐ20世紀最大の実写フィルム

カメラの前で人間が
ただの肉の塊りになる…
正視できるか?・ヘジャンキー!ドキュメント!

全世界を震撼させた衝撃の
“死の瞬間”を完全激撮!

■2000ボルトの殺人マシンノ暴行・
殺人犯ラリー・デ・シルバ電気椅子処刑ノ

(1979年アメリカ)

■妻子を斬殺ノ通行人乱射ノライフル魔
マイク・ローレンス昼下りの射殺ノ

(1973年7月21日アメリカ)

■性別・年令・身元判別不可能ノ
ボーイング墜落現場に散乱するバラバラ死体ノ

(1978年9月23日午前9時)

■遊牧民の血の掟ノ裏切り者の生首は
砂漠に転がるノ

(中近東某国)

■青酸ガスはアーモンドの香りノ凶悪
殺人犯ガス処刑ノ

(1968年10月17日)

■ニュース・カメラが偶然捉えた、巨大ワニの
人喰い現場ノ

(1977年8月)

■不老不死を願う邪教の聖餐ノ
人間の内臓をむさぼり、SEXに狂うノ

(サンフランシスコ)



カラー作品/アメリカ映画

ジャンキー
死と惨劇

FACES of DEATH

ジャンク

死と惨劇

製作総指揮/ウィリアム・B・ジェームズ

製作/ロシリン・T・スコット

監督/コナン・ル・シレール

撮影/マイケル・ゴールドン/デミトリ・フェルモ

松竹・富士映画 共同配給

話題騒然!!

網膜に焼きついて

剥がれない

ジャンキー・ショットの連続!!



暴行・殺人犯電気椅子処刑!

スイッチを入れる。まず2000ボルトの電流が送り込まれる。ブーンという鈍い振動音とともに囚人の体が痙攣する。頭に取り着けられた電極がガタガタと揺れて傾く。回りに肉の焼けた臭いがたちこめる。両眼にあてがわれたガーゼの下からどす黒い血がしたたる。テープが必死に飛び出そうとする眼球を押えている。ブッと喉の奥から白い唾液が吐き出される。絶命した囚人の筋肉は、それでも空しく電気の刺激に反応を繰り返している。



不老・不死を願う邪教の聖餐

薄暗い地下室に教祖の呪文が響く。「兄弟たちよ! 私たちの前に贈り物がある。これは私たちににより長い命と愛を与える……」。10人程の男女が横たわる死体を囲むように座っている。教祖はメスを持ち、死体の腹を一文字に切り裂く。内臓をとり出し信者に分け与える。飢えた獣のように臓物を奪いあう男女。服を脱ぎ体中に肉臓をなすりつけて恍惚となる女……血と体液でぬめぬめと光る肌を寄せて男女はSEXの快楽に落ちていく……。



727墜落現場に散乱する肉の塊り!

1978年9月25日午前9時、サンディエゴ上空。乗客129人と乗員6人を乗せたボーイング727機が、練習生と教官の2名を乗せたセスナ機と衝突。機体は炎を吐きながら住宅地めがけて墜落した。あちこちの家の屋根や庭先や道路にバラバラになった死体と飛行機の破片が散乱した。その上10数軒の住宅が炎上、12名の死者を出した。血のしたたる頭のない胴体、腕、足、手などが無残に転がっているさまは、まさに地獄絵図である。



狂乱のライフル魔昼下りの狙撃

1973年7月21日、アメリカ=サンフェルナンド・バレー。善良な市民マイク・ローレンスが通行人にライフルを乱射し始めた。出動したSWATは催涙弾攻撃を仕掛け、家から飛び出して来たところを射殺した。踏み込んだ警官隊は催涙弾と血の臭いにむせる。キッチンが血の海なのだ。マイク・ローレンスの妻と2人の子供がナイフで喉を斬られ死んでいる。一体何がこの男と3人の家族に起こったのだろうか……!?



ニュース・カメラが偶然捉えた! 巨大ワニの人喰い現場!

1977年8月、アメリカ南東部、動物保護区に棲息する巨大なワニが子供たちの遊び場である湖にまぎれこんだ。狩猟監督官が通報で到着。ボートで引いていこうとワニにロープをかけた。と、突然ロープがビーンと張ったかと思うと係官が空中に飛び湖に落ちた。バシャバシャと水を叩く音がする。駆け寄る人たち。偶然居合わせたニュース・カメラが走る。血まみれになってのが係官。左腕は無残にも喰いちぎられ、命までも……。



ジャンク

-JUNK-

とは……

もともとは「(物の)塊り」とか「(船の)古綱」とか「塩づけ肉」という意味であるが、この本来の意味で使われることは殆んどない。日常語としての「ゴミ」「ガラクタ」「(クズとして)捨てる」という意味の方が幅をきかせている。映画の世界でも「ジャンクする」という使い方をよくする。古くなったフィルムを処分するということだ。

この「ゴミ」という意味から「ジャンキー」というスラングが生まれた。「毒」とか「害のある」とか「クスリ」という意味で、ジャンキー・ドリンクとかジャンキー・フードなどという使い方を。そして「ジャンキー」といえば「麻薬中毒者」という意味である。「ジャンク・ヤード」もゴミ捨て場という意味よりも「ペイ中の溜り場」を示すようになり、「ジャンク・ショップ(古道具屋)」も麻薬の密売所を意味するようになった。そして現在、「ジャンキー」と言えば「汚ない」「ためにならない」「毒々しい」「目を覆うような」という意味にも使われる。

殺人の瞬間—生きた人間が命を奪われ、ただの肉の塊り(ジャンク)になる瞬間を捉えたこの「ジャンク/死と惨劇」は、まさにジャンキー・ドキュメントと言えるだろう。

近日ジャンキー
ロードショー!

歌舞伎町
コマ劇場前

新

宿

東

急

(200)
1981

新宿映パラス (351)
3061

池袋東急 (971)
2727

丸の内映パラス (535)
4740

渋谷東急レックス (407)
7019